

生ごみ処理器「こうげキエーロ」の使い方
マニュアル



上 毛 町
（住民課）

はじめに

本マニュアルは、生ごみ処理器「こうげキエーロ」の使い方を説明したもので、生ごみ処理の効果を保証するものではありません。

使い方については、以下の注意事項を参照し取り扱いをお願いします。

注意

- (1) キエーロの中に土を入れて運用します。土を入れた状態では、重量が大きくなります。設置場所は、十分に安定した場所に設置して下さい。不安定な場所への設置による損壊等に注意して下さい。
- (2) キエーロの扉の開閉には、指を挟まないように注意して下さい。
- (3) キエーロの中に入れる土は、畑の土やホームセンター等で販売している「黒土」、園芸用の土などが使えます。砂や粘土質の土は使用できませんので注意して下さい。
- (4) 「こうげキエーロ」の取り扱い上のトラブルについては、付属の「こうげキエーロ トラブル解決シート」を参考の上、対応をお願いします。

目次

1. こうげキエーロとは	1
2. 用意するもの	1
3. 設置場所について	1
4. 使用手順	2
5. 分解が早いもの、遅いもの、できないもの	3
6. Q&A	3
付録1 冬をのりこえるポイント	4
付録2 こうげキエーロトラブル解決シート	5

1. こうげキエーロとは

こうげキエーロとは、木製の箱に土を入れ、土の中に埋めた生ごみをバクテリアが分解する生ごみ処理器です。正しく使用すれば虫や臭いが発生しにくいといった特徴があります。

- ・土の中にいる微生物が生ごみを分解するので、土が増えない！
- ・土が増えないので、畑のない庭でもベランダでも使える！
- ・特別な菌等は不要なため、維持費がかからない！
- ・使い方が簡単。臭いも虫も気にならない！
- ・食用油、汁物、腐ったもの、カビが生えたものでも処理が可能！
- ・投入する生ごみの水切りが不要！
- ・生ごみを分解した土は、堆肥にも使える！※使った分の土の補充が必要です。

2. 用意するもの

【土】約100L

畑の土やホームセンター等で販売している黒土、園芸用の土などが使えます。
砂や粘土質以外のものならOK です。

【スコップ】 剣先スコップ中型と園芸用スコップがオススメです。

【ジョウロ】 キエーロに水を補給するために必要。バケツやペットボトルでも良い。

【ふた付きの容器】 台所に置いて生ごみを溜める場合に使用。ジップ付き保存袋でも可。

【レンガなどの敷石】 土の上に設置する場合は脚が沈んで底板が直接触れることが
ないようにレンガなどの敷石があると良い。

3. 設置場所について

虫や臭いが発生しないためには、表面の土が乾いていることが重要です。設置する際には、日当たりと風通しの良い場所を選びましょう。

土を入れると重くて動かすことが難しいので、設置場所は利用目的にあった場所を選びましょう。生ごみを分解した土を堆肥等として使用したい方は、堆肥として使用する箇所の近くに、また、土の入れ替えをしない方はキッチンから近いところに置くなど、長く使い続けるために使いやすい場所に設置しましょう。

キエーロに土を入れたら準備完了です。

4. 使用手順

① 生ごみを溜める

ふた付きの容器に生ごみをため溜めておくとう便利。容器はどんなものでもOK。

数日間溜めてもいいし、毎日埋めてもいい。

※夏は腐りやすいので長い日数溜めないように。

② キー口内の土に穴を掘って生ごみを埋める

20 cm程の深さの穴を掘る。20 cm程の深さが最もバクテリアの働きが良い場所になります。掘った穴に生ごみを入れますが、生ごみが乾いていたら水や廃食用油と一緒に入れましょう。水の量は、かき混ぜた土を握ったら固まらず、こぼれる程度が目安です。

※水が少ないと微生物が活動できず、分解が進まず、水が多いと生ごみが腐って臭い、虫が発生する原因になります。



③ 生ごみを入れて細かく砕く

スコップで細かく砕きながら、土と見分けがつかなくなるくらいまで、よく混ぜる。生ごみを細かくして土をよく混ぜ合わせることで、生ごみを分解しやすくなり、虫も発生しにくくなります。



④ 乾いた土をたっぷりかぶせて終了

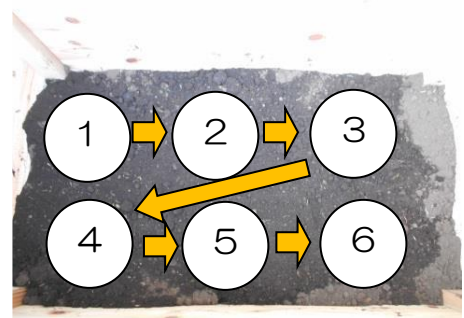
最後に乾いた土で穴を埋め戻します。この時、生ごみが見えないようにしっかりとかぶせることで、「臭い」や「虫の発生」を防ぐことができます。表面の土は常に乾いた状態を保って下さい。



⑤ ①～④の作業を繰り返す

埋める頻度は毎日でも数日おきでも良い。

穴は6か所が目安。順番に埋める場所を変えることで、一巡した頃には最初の生ごみが分解されて消えています。分解にかかる日数は、夏場は3～4日、冬場は10 日前後です。



5. 分解が「早いもの」、「遅いもの」、「できないもの」

分解が
はやい

痛んだ野菜や果物／火や湯を通した野菜や果物／魚の内臓や煮汁／生肉や脂身／ラーメン、味噌汁、カレーなど調理品の残り物／痛んだ弁当や残飯／デザート／ジャムやバター／塩辛／菓子／食用油（廃食油）／飲み物／揚げ物／もみがら、米ぬか

分解が
おそい

刻んだ野菜くず／果物（果肉）／野菜の皮／梨、りんご、ぶどうなどの果物の皮／火を通した魚や肉／パンやご飯／麺類／お茶がら、コーヒーかす／エビの殻

【そのままでは分解しにくいので加熱や細かくするなどの工夫が必要】

かんきつ類の皮／とうもろこしの芯／玉ねぎなど繊維の多い皮／枝豆のさや／スイカの皮／冬瓜の皮／キャベツなど野菜の芯／根菜類／ブロッコリーの太い茎／昆布／魚の大きな頭や小骨／たまごの殻／カニの殻

分解が
できない

貝殻／鶏の骨／タケノコやとうもろこしの皮／栗の皮／カボチャ、梅干し、アボカド、ゴーヤ、桃などの種／魚の大きな骨／ワサビなど殺菌力のあるもの

6. Q&A

Q：使っていくうちに土が増えたり、入れ替えをしたりしなけばいけないの？

A：生ごみはエネルギー物質や二酸化炭素などに分解されてしまうので、土の増減は、ほとんどありません。また、土の入れ替えも必要ありません。

Q：コロコロの土の塊が残っていてもいいの？

A：2～3週間すると、生ごみはコロコロした白っぽい灰色の塊に変わります。これは分解がうまくいっている証拠です。塊はそのままにせず切り崩して埋めましょう。次回の生ごみを一緒に入れても大丈夫です。

Q：野菜類が分解できない

A：できるだけ細かくして投入しましょう。数日おいて、痛むと分解されやすくなります。

Q：木は腐らないの？

A：木材には防腐加工処理をしていますが、防腐剤入りの塗料などを定期的に塗布していただくことで、より長く使っていただけます。

Q：キエーロの土は堆肥として使える？

A：キエーロの土は堆肥としても使用できます。その場合は、使用した分の土を補充して下さい。また、土は取り出して1 か月程度熟成させてから追肥として使用することをおすすめします。

冬をのりこえるポイント

気温の低い冬はバクテリアの活動も鈍く、分解が遅くなります。

寒い冬を乗り越えて快適なキエーロライフを送るための5つのポイントを紹介します！

ポイント 1 いつもより土をよく混ぜる

冬は土も冷えて固くなりがち！分解中の塊をほぐすだけでなく、シャベルを刺すようにして全体的に空気を入れ、ふかふかの土を保つことが大切です。生ごみの分解が全て終わった頃を見計らい、一度底のほうから掘り返してみましょう。空気の入った土はやわらかく、作業も楽になります。

ポイント 2 生ごみをいつもより長めに溜める

野菜くずなどバクテリアの苦手なものはふた付きの容器にいつもより長めに溜めておくと分解しやすい状態になります。屋内に置いていても臭いが気になりにくい冬ならではのコツ。分解しやすい肉や魚は早めに埋めて、野菜類は長めに溜めてから埋めると良いでしょう。

ポイント 3 使い終わった油が分解を早める

使い終わった食用油はバクテリアの働きを活発にして分解を早めます。廃食用油を容器に取っておいて、野菜くずをたくさん埋めるときなどに一緒に混ぜると効果的です。

ポイント 4 生の野菜くずは小さく or 熱を通す

特に分解に時間がかかるのが野菜くずです。小さく刻むか、調理時に出た下ゆでの残り湯にしばらくつけておきましょう。また、野菜の皮や芯、ヘタなどは出汁にすることで美味しく栄養も取れて一石二鳥です。

ポイント 5 分解しにくいものは燃やすごみに出す

「工夫しているのに消えるのが遅い…」そんな時は分解が遅いもの（前ページのリスト参照）は燃やすごみの収集に出し、魚や肉など分解しやすいものを中心に埋めるなど、キエーロに無理をさせないことも上手に使うコツです。

こうげキエーロ トラブル解決シート

原 因		対 策	緊急時対応
虫 が 発 生 し た	生ごみが表面に出ていませんか？ 生ごみが浅いところに埋まっていますか？	虫が寄ってくる臭いの原因になります。 深さ20cm以上のところに埋め直しましょう。	殺虫剤を使用しても分解には影響ありません。熱湯を少量かけて退治することもできますが、水分量に気をつけましょう。
	土の表面が湿っていませんか？	中の生ごみの臭いが外に漏れやすくなります。乾いた土をかぶせるか、表面が乾くまで生ごみの投入を控え、空気を混ぜながら生ごみを分解しきってしまいましょう。	
	生ごみが土と混ざらずに塊になっていませんか？	土と混ぜ合わせなければ生ごみの分解が進まず、臭いの原因となって成虫が卵を産みにやってきます。埋める際にはよく土と生ごみを混ぜましょう。	
	庭木の枯葉などを入れていませんか？	枯葉には虫の卵がついていることがあり、栄養たっぷりのキエーロの土の中でふ化して大量発生する可能性があるので注意しましょう。	
臭 い が す る	掘り起こすと臭う	中で土が固まっていますか？ 空気が不足しています。空気を入れるように混ぜて分解を進めてあげましょう。	乾いた土を表面にかぶせると臭いが緩和されます。
	中が水分でドロドロになっていませんか？	水分が多すぎです。乾いた土と混ぜざわせて水気を緩和し、生ごみが分解されるまで投入を控えましょう。	
	生ごみが多すぎませんか？	生ごみを入れすぎると分解が追い付かなくなり、臭いや虫の原因となります。分解しやすいものだけにするなど、投入日や量を減らしましょう。	
	魚の内臓など臭いの強い生ごみを入れましたか？	分解途中は掘り起こすと臭いがします。分解されるまで掘り起こさないようにしましょう。	
	表面が臭う	土の表面が湿っていませんか？ 中の生ごみの臭いが外に漏れやすくなります。乾いた土をかぶせるか、表面が乾くまで生ごみの投入を控え、空気を混ぜ入れながら生ごみを分解しきってしまいましょう。	
	生ごみが浅いところに埋まっていますか？	少し深めに埋めなおすか、上に乾いた土をかぶせましょう。	
生 ご み が 消 え な い	生ごみと土をよく混ぜていますか？	穴に生ごみを入れ、土をかぶせるだけでは分解が進まず、虫や臭いの原因にもなります。生ごみと土をよく混ぜ合わせることで分解しやすくなるので、生ごみを入れたら土と一緒にスコップでザクザク！してから土をかぶせてください。	
	使い始めて間もないですか？	初めはバクテリアが少ないので分解に時間がかかりますが、生ごみの投入を続けるうちに分解が進むようになります。	
	野菜が残っていることが多いですか？	野菜（主に皮や芯）は分解に時間がかかりますが、いずれ分解されます。次の生ごみを一緒に埋めても大丈夫です。乾燥した野菜くずが多いときは適量の水分や廃食用油を加えると分解しやすくなります。（水は入れすぎないように注意してください）	
	中がドロドロで生ごみが全体的に残っていますか？	水分が多すぎです。乾いた土と混ぜざわせて水気を緩和し、生ごみが分解されるまで投入を控えましょう。	
	底の方で土と一緒に固くなっていますか？	空気が不足しています。空気を入れるように混ぜて分解を進めてあげましょう。	
	白っぽい土の塊になっていますか？	白っぽいカビのようなものは分解が進んでいることを表しています。シャベルで塊を砕いておけば完全に分解されるので、次の生ごみも一緒に埋めて問題ありません。	
	気温が下がってきていませんか？	寒くなって気温が下がると分解が遅くなります。裏面の冬の対策をご覧ください。	